

令和3年10月26日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報告）

ア 令和4年度浜松市奨学生の選考結果について

※教育総務課就学支援担当課長から資料に基づき説明

（安田委員）大学1年生の応募が多いが、毎年そうなのか。また、大学2年生の応募者が少ないが、大学1年生で貸与を受けた奨学生は、2年生以降も継続貸与を希望しないのか。

（就学支援担当課長）毎年、大学等進学のため高校3年生向けに案内を出していることもあり、大学1年生の応募が多い。大学への案内は行っていないため、大学在学中から貸与を受ける人は少ない。また、ほとんどの場合が2年生以降も継続貸与を希望している。今回は新規採用者の選考であるため、継続貸与者の数は含まれていない。継続貸与は出席日数や成績等をみながら、別途審査を行っている。

（安田委員）返還の負担を考え、1年等で貸与を辞退する人もいるのか。

（就学支援担当課長）そのような人もいる。

（神谷委員）浜松市以外にも奨学金制度はあると思うが、辞退者は何割程度いるか。

（就学支援担当課長）国内で一番大きな規模の制度に日本学生支援機構のものがあり、有利子、無利子どちらもある。浜松市は無利子である。無利子の制度を比較した場合、貸与を受けられる所得基準が浜松市のほうが幅が広いと見込んでいる。今回は45人のうち18人が併願している。どちらも採用された場合、半分程度が浜松市の制度を選ぶのではないかと見込んでいる。

イ 令和4年度採用浜松市立小中学校教員採用選考試験の結果について

※教職員課採用管理担当課長から資料に基づき説明

（安田委員）静岡県や他市の状況を鑑み、今回の浜松市の実質倍率をどう受け止めているか。

（採用管理担当課長）昨年度は4.2倍だったため、今年度は0.1上がった。今年度の静岡県、静岡市の倍率と比較すると、浜松市が一番高い状況である。倍率4.0は確保したいとの思いで行っているため、今回はなんとか確保することができた。

(安田委員) 大学訪問等で志願者の掘り起こしを頑張ってくれている成果だと思う。引続き尽力いただきたい。

(黒柳委員) 他県の教育委員と話した際に、子供が学校から講師募集の案内チラシを持ち帰ってきて、教員不足を実感したと聞いた。浜松市はそこまでの状況には至っていないが、安心できる数値ではないため、教員確保に向けて引続き頑張ってください。

ウ 博物館の事業について

※文化財課長から資料に基づき説明

(意見無し)